

あの頃は・・・

回想 ～ 一本の鉛筆から

教諭 川瀬 京子

当校在職期間 昭和54年4月～昭和58年3月

平成 2年4月～平成21年3月

平成29年4月～現在

退職をして幾分時間ができたこともあり、家の中を少しずつ片付けていた時のこと、懐かしい一本の鉛筆を見つけました。「賞 岐阜県立大垣養護学校運動会」と名入れされた、深緑色の六角鉛筆でした。「そういえば昔は、運動会の参加賞として鉛筆を貰ったなあ」さらに、鉛筆の前は「紅白饅頭」を貰っていた時があったことも思い出しました。当時（昭和56年頃）の運動会は、小学部から高等部まで全校一緒に行っていました。「プログラム1番 全校児童生徒による入場行進」は、トラックを一周行進するだけでしたが、大変迫力があつたことを記憶しています。

昭和49年6月5日が本校の創立記念日ですので、毎年6月5日には、全校集会を開いたり、給食にお赤飯が出たり、小学部では、6月の生活単元学習に「ようごまつり」という単元を組んだりするなど、「学校の誕生日」を全校でお祝いしたものです。

当時小学部は、現在のⅠ学級を「月組」「花組」、Ⅱ学級を「星組」という、宝塚歌劇団のような素敵な学級名が付けられていました。また、昭和50年代後半には、在籍児童生徒数も350名ほどになり、特別支援学校では県下のマンモス校でした。訪問教育を受ける児童生徒が50名近い年もありました。今となつては寄宿舎生も大変少なくなりましたが、120名を超える寄宿舎生がいた時もあり、寄宿舎のことを「大養マンション」などと呼んでいました。同窓会の係を担当していた時は、観光バス5台連ねて行った東谷山フルーツパークや上石津緑の村公園でのバーベキュー、伊吹山山頂での「成人を祝う会」等を計画し、多くの卒業生と保護者の参加があつたこと、これも懐かしい思い出です。

長い教員生活で、30年余りをここ大垣特別支援学校で勤務させていただきました。22歳で初任者として大垣養護学校に赴任し、60歳で大垣特別支援学校で定年退職を迎えたことは感慨深いものがあります。30年余りの間には学校名の改称、小学部に「自閉症学級」といった自閉症に特化した学級の設置、高等部の北校舎移転と「職業コース」設置、「普通コース」と「職業コース」の一本化、校舎の増改築や耐震工事、数多くの研究発表会、子どもかがやきプランによる「総合化」等々、多くの歴史を刻んできました。半世紀を迎えた今、大垣特別支援学校が障がいのある子どもたちにとって、心のよりどころとなり、居心地のよい「心の居場所」であり続けますよう祈念致します。

